

電気協同研究 第62巻 第3号 送電用鉄塔の設計荷重 正誤表

頁	箇所	正	誤
3	海外調査班北米班同行	真野匡司	真野 匡
9	左側 上から2行目	建築物荷重指針 <sup>7)</sup>	建築物荷重指針 <sup>5)</sup>
25	(4・2・8) 式	$L_u^y = \int_0^\infty R_{uu}(y) dy$	$L_u^x = \int_0^\infty R_{uu}(y) dy$
35	第4-4-1表 JEC-127-1979の架渉線 風圧の径間低減	$\beta = 0.5 + 40/S$	$\beta = 0.540/S$
47	右側 下から19行目「(1)風 荷重の分類」の、①と②の 変動成分の最大値の記号	小文字pにする ①・・・(・・・, 変動成分の最大値: $p_T^L$ ) ②・・・(・・・, 変動成分の最大値: $p_T^T$ )	大文字Pになっている ①・・・(・・・, 変動成分の最大値: $P_T^L$ ) ②・・・(・・・, 変動成分の最大値: $P_T^T$ )
48	(4・6・5) 式	小文字pにする 変動成分の最大値 $p_{Ti}^T, p_{Ti}^L =$	大文字Pになっている 変動成分の最大値 $P_{Ti}^T, P_{Ti}^L =$
54	右側 上から24行目	(施行令)の部分の網掛けをなくす 建築基準法(施行令)	建築基準法(施行令)
66	左側 下から2行目	(4) 最近の動向 <sup>62), 63), 64)</sup>	(4) 最近の動向 <sup>62), 63)</sup>
	右側 上から22行目	4-7-7 土木構造物の荷重指針 <sup>65), 66)</sup>	4-7-7 土木構造物の荷重指針 <sup>64), 65), 66)</sup>
81	(f) 湿型マップとの比較	JEC-127-1979 <sup>3)</sup>	JEC-127-19793)
88	第5-3-14図	相関係数=0.92	相関関係=0.92
102	第5-3-39, 41図	(横軸) 無対策	(横軸) 無体策
107	第6-2-2図	③スラブ内地震	スラブ内地震 ③スラブ内地震
109	第6-2-8図	(a) 観音崎 (b) 富津岬 (c) 浮島公園	(a) 観音崎 (a) 観音崎 (a) 観音崎
119	第6-2-30図	振幅包絡形	振り幅包絡形
121	第6-3-1表 新潟県中越地震の傾斜, 部材変形数量	52 (基)	41 (基)
128	6・4・6式	$N_p = \sqrt{(N_{pL})^2 + (N_{pT})^2}$	$N_p = \sqrt{(N_{pL})^2 + (B_{pT})^2}$
130	第6-5-1図	部材応力比の高さ分布 <sup>40)</sup>	部材応力比の高さ分布 <sup>38)</sup>
	第6-5-2図 中央鉄塔の鉄塔全高	97m	93m

電気協同研究 第6 2巻 第3号 送電用鉄塔の設計荷重 正誤表

頁	箇所	正	誤
135	第6-5-13表	500kV PA型 支柱材 1.59 (JMA神戸) 腹材 1.99 (JMA神戸)	500kV PA型 支柱材 1.80 (JMA神戸) 腹材 2.03 (JMA神戸)
147	第6-6-18図	基準応答倍率 (特A, A地区の例) <sup>29)</sup>	基準応答倍率 (特A, A地区の例) <sup>23)</sup>
	第6-6-19図	減衰定数に基づく補正係数 <sup>29)</sup>	減衰定数に基づく補正係数 <sup>23)</sup>
152	右側 下から3行目	非応力材	無応力材
	第7-1-1表	仕様・諸元	使用・諸元
153~ 154	第7-1-4~6図	p-p	P-P
155	右側 上から2行目	7・2・4式	7・2・4
156	右側 下から8行目	において	において
159	左側 上から4, 5行目	kN	KN
185	左側 下から11行目	破壊の局所化	破壊の局限化
189	付1-3表 ・兵庫県南部地震の支持物 倒壊数量	鉄塔1基 154kV : 1基	鉄塔1基 15kV : 1基
190	付1-3表 ・新潟県中越地震の支持物 傾斜, 部材損傷数量	鉄塔 52基 275kV : 11基 154kV : 14基 66kV : 27基	鉄塔 41+ $\alpha$ 基 275kV : 確認中 154kV : 14基 66kV : 27基
199	付6-1図	応答倍率の分布	応答倍率の分
199	右側 上から1~8行目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1種地盤</li> <li>G<sub>s</sub>=1.5 (T&lt;0.576)</li> <li>G<sub>s</sub>=0.84/T (0.576≤T&lt;0.64)</li> <li>G<sub>s</sub>=1.35 (0.64≤T)</li> <li>・第2種, 3種地盤</li> <li>G<sub>s</sub>=1.5 (T&lt;0.64)</li> <li>G<sub>s</sub>=1.5/ (T/0.64) (0.64≤T&lt;Tu)</li> <li>G<sub>s</sub>=gv (Tu≤T)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1種地盤</li> <li>G<sub>s</sub>=1.5 (T&lt;0.576)</li> <li>G<sub>s</sub>=0.84/T (0.576&lt;T&lt;0.64)</li> <li>G<sub>s</sub>=1.35 (0.64&lt;T)</li> <li>・第2種, 3種地盤</li> <li>G<sub>s</sub>=1.5 (T&lt;0.64)</li> <li>G<sub>s</sub>=1.5/ (T/0.64) (0.64&lt;T&lt;Tu)</li> <li>G<sub>s</sub>=gv (Tu&lt;T)</li> </ul>

平成 30年 2月 16日 追加修正箇所 ⇒P130 第6-5-2図, P135 第6-5-13表

(注: 第73巻第3号発刊に当たり、既存正誤表の見直しも合わせて実施。既存正誤表の修正箇所は、次ページ以降参考までに赤字で注記。修正箇所は上表に全て反映済み)

『左側 上から2行目』等の表現に統一した

電協研 第 62 卷 第 3 号 送電用鉄塔の設計荷重 正誤表

頁	箇所	正	誤
3	海外調査班北米班同行	真野 匡 司	真野 匡
9	左段上から 2 行目	建築物荷重指針 <sup>7)</sup>	建築物荷重指針 <sup>5)</sup>
25	(4・2・8)式	$L_u^y = \int_0^\infty R_{uu}(y) dy$	$L_u^x = \int_0^\infty R_{uu}(y) dy$
35	第 4-4-1 表 JEC-127-1979 の架渉線 風圧の径間低減	$\beta = 0.5 + 40/S$	$\beta = 0.540/S$
47	右段下側「(1)風荷重の分類」の中の、①と②の変動成分の最大値の記号	小文字 p にする。 ①・・・(・・・, 変動成分の最大値: $p_T^l$ ) ②・・・(・・・, 変動成分の最大値: $p_T^r$ )	大文字 P になっている。 ①・・・(・・・, 変動成分の最大値: $P_T^l$ ) ②・・・(・・・, 変動成分の最大値: $P_T^r$ )
48	(4・6・5)式	小文字 p にする。 変動成分の最大値 $p_{Ti}^r, p_{Ti}^l =$	大文字 P になっている。 変動成分の最大値 $P_{Ti}^r, P_{Ti}^l =$
54	右・上から 24 行目	(施工令)の部分の網掛けをなくす。 建築基準法 (施工令)	建築基準法 <del>(施工令)</del>
66	左・下から 2 行目	(4) 最近の動向 <sup>62), 63), 64)</sup>	(4) 最近の動向 <sup>62), 63)</sup>
	右・上から 22 行目	4-7-7 土木建造物の荷重指針 <sup>65), 66)</sup>	4-7-7 土木建造物の荷重指針 <sup>64), 65), 66)</sup>
81	(f)湿型マップとの比較	JEC-127-1979 <sup>3)</sup>	JEC-127-19793)
88	第 5-3-14 図	相関係数=0.92	相関関係=0.92
102	第 5-3-39, 41 図	(横軸) 無対策	(横軸) 無体策

スペース削除

原本P54 (施工令)  
建築基準法も「施工令」のため  
訂正した

施工令  
~~(施工令)~~

107	第 6-2-2 図	③スラブ内地震	スラブ内地震 ③スラブ内地震
109	第 6-2-8 図	(a) 観音崎 (b) 富津岬 (c) 浮島公園	(a) 観音崎 (a) 観音崎 (a) 観音崎
119	第 6-2-30 図	振幅包絡形	振り幅包絡形
121	第 6-3-1 表 ・新潟県中越地震の傾斜，部材変形数量	52 (基)	41 (基)
128	6・4・6 式	$N_p = \sqrt{\{(N_{pL})^2 + (N_{pT})^2\}}$	$N_p = \sqrt{\{(N_{pL})^2 + (B_{pT})^2\}}$
130	第 6-5-1 図	部材応力比の高さ分布 <sup>40)</sup>	部材応力比の高さ分布 <sup>38)</sup>
147	第 6-6-18 図	基準応答倍率 (特 A, A 地区の例) <sup>29)</sup>	基準応答倍率 (特 A, A 地区の例) <sup>23)</sup>
	第 6-6-19 図	減衰定数に基づく補正係数 <sup>29)</sup>	減衰定数に基づく補正係数 <sup>23)</sup>
152	右側 下から 3 行目	非応力材	無応力材
152	第 7-1-1 表	仕様・諸元	使用・諸元
153~ 154	第 7-1-4~6 図	p - p	P - P
155	右側 上から 2 行目	7・2・4 式	7・2・4
156	右側 下から 8 行目	において	において
159	左側 4, 5 行目	k N	K N
185	左段下から 11 行目	破壊の局所化	破壊の局限化

原本P128 6・4・6式に，中かっこ { } の記載がないため削除した

『左側 下から11行目』の表現に統一した

189	付 1-3 表 ・兵庫県南部地震の支持物倒壊数量	鉄塔 1 基 154kV : 1 基	表現の統一 ○付 1-3表 ○…支持物倒壊数量 …支持物傾斜部材破損数量	鉄塔 1 基 15kV : 1 基
190	付録 1-3 表 ・新潟県中越地震の傾斜，部材損傷数量	鉄塔 52 基 275kV : 11 基 154kV : 14 基 66kV : 27 基		鉄塔 41 + α 基 275kV : 確認中 154kV : 14 基 66kV : 27 基
199	付 6-1 図	応答倍率の分布		応答倍率の分
199	右・上から 1~8 行目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 種地盤  <math>G_s = 1.5</math> (<math>T &lt; 0.576</math>)  <math>G_s = 0.84/T</math> (<math>0.576 \leq T &lt; 0.64</math>)  <math>G_s = 1.35</math> (<math>0.64 \leq T</math>)</li> <li>・第 2 種、3 種地盤  <math>G_s = 1.5</math> (<math>T &lt; 0.64</math>)  <math>G_s = 1.5/(T/0.64)</math> (<math>0.64 \leq T &lt; T_u</math>)  <math>G_s = gv</math> (<math>T_u \leq T</math>)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 種地盤  <math>G_s = 1.5</math> (<math>T &lt; 0.576</math>)  <math>G_s = 0.84/T</math> (<math>0.576 &lt; T &lt; 0.64</math>)  <math>G_s = 1.35</math> (<math>0.64 &lt; T</math>)</li> <li>・第 2 種、3 種地盤  <math>G_s = 1.5</math> (<math>T &lt; 0.64</math>)  <math>G_s = 1.5/(T/0.64)</math> (<math>0.64 &lt; T &lt; T_u</math>)  <math>G_s = gv</math> (<math>T_u &lt; T</math>)</li> </ul>

以上